

川辺ナホ 個展『The Children of Icarus』開催のご案内

展覧会名：川辺ナホ 個展『The Children of Icarus』

会 期：2017年3月11日（土）～4月9日（日）

オープニングレセプション：3月10日（金）18:00-21:00（展覧会初日の前日開催となります）

・会期中は、月曜 17～23時、木・金・土 12～19時、日 12～18時のオープンとなります。（定休日：火水祝）

・本展のオープニングレセプションを、展覧会オープン前日の3月10日（金）18～21時に開催します。作家も在廊いたします。

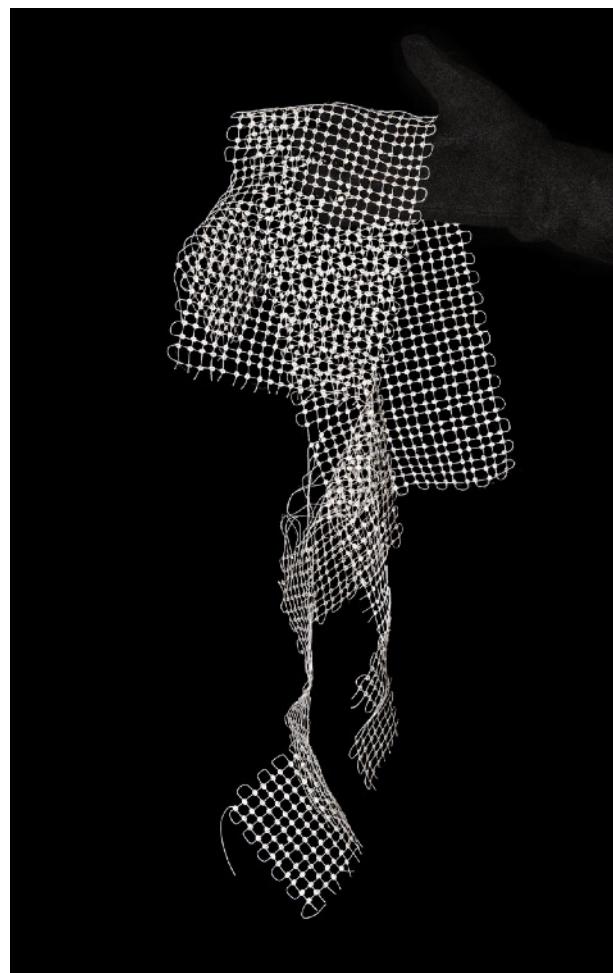
・なお、レセプション前の時間帯は展覧会はクローズしております。

会 場：WAITINGROOM（東京都渋谷区恵比寿西2-8-11 渋谷百貨ビル3F 4B）

WAITINGROOM（東京）では2017年3月11日（金）から4月9日（日）まで（レセプションは3月10日開催）、川辺ナホ 個展『The Children of Icarus』を開催いたします。当ギャラリーでは初の、国内では3年ぶりの個展開催となる川辺は、ドイツと日本を拠点に活動し、マテリアルの変換をテーマに、映像や複数のオブジェを組み合わせたインスタレーションなど、メディアを横断して作品を制作している現代美術アーティストです。本展は、現代社会における原子力エネルギーや放射能物質を取り巻く問題を起点に、人が知覚し得る範囲をはるかに超えた時間軸をテーマにしながら、緻密に計算された光と影によるインスタレーション作品、木炭を使った平面作品、ペーパーカットによる半立体作品など、すべて新作で構成されます。



《Metasequoia》 2017年、C-Print、300 x 450 mm



《Solaris》 2017年、C-Print、300 x 450 mm

作家・川辺ナホについて

1976年福岡県生まれ、現在はドイツと日本を拠点に活動中。1999年に武蔵野美術大学造形学部映像学科卒業後、2006年にUniversity of Fine Arts of Hamburgを修了。近年の展覧会として、2016年個展『delikatelinien』(Ermekeilkaserne / ボン・ドイツ)、2016年グループ展『The Material of Memory』(Frise / ハンブルク・ドイツ)、『Lifestyles』(Westwerk / ハンブルク・ドイツ)、2014年グループ展『想像しなおし』(福岡市美術館 / 福岡)、2014年個展『piece, piece (with Jane Brucker)』(Port Gallery T / 大阪)、2013年個展『Observer Effect』(Galerie du Tableau / マルセイユ・フランス)、2011年個展『Shiseido Art Egg / Open Secret』(Shiseido Gallery / 東京)などが挙げられ、国内外で精力的に活動しています。

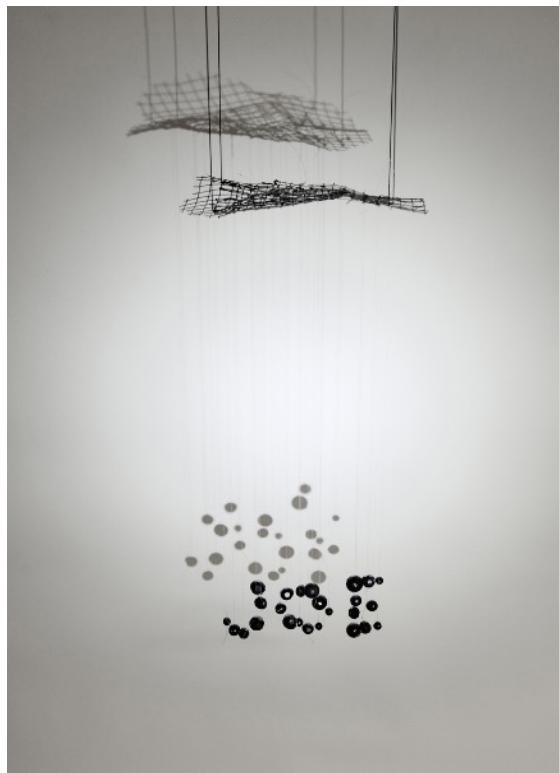
何万キロと離れた場所、何億光年と離れた場所。何千年もの昔、何億年後の未来。どのくらい遠くまで、想像することができるだろう

2016年8月31日、原発の廃炉で出る放射性廃棄物のうち、「原子力規制委員会は制御棒など比較的放射能レベルが高いもの(L1)の扱いを決めた。地震や火山の影響を受けにくい場所を選び、70メートルより深い地中に埋めて、電力会社が300~400年間管理する。そのあとは国が引き継いで、10万年間掘削を制限する(原子力監視委員会)」。この10万年という、人間の知覚し得る範囲をはるかに超えた時間を目の当たりにした時、私たちの想像はどれほどまで遠くにいくことができるのでしょうか。「時間の想像の距離が延びれば延びるほど、今立っているこの場所は相対的に細く細く綱渡りの綱のようになってゆくので、バランスを取るのが難しい。時間の長さをバランス棒のように横に持ち変えることはできないだろうか。」と川辺は言います。

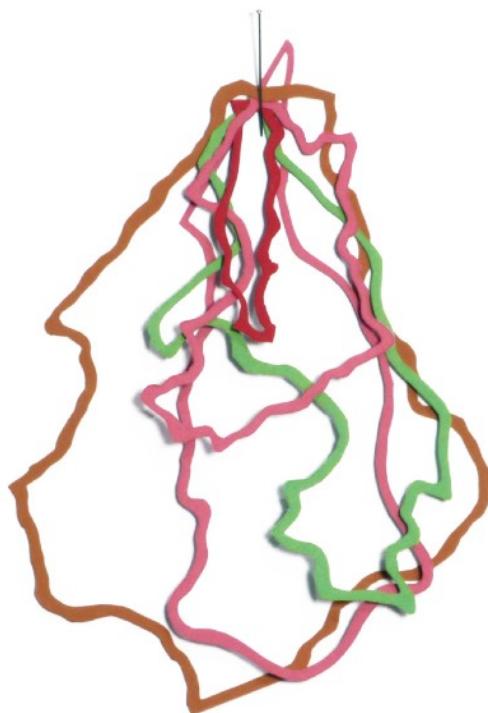
本展では、球体のオブジェと光と影によって作り出されるインスタレーションに、SF小説から引用された名前が浮かび上がります。10万年という、もはや人間の視点で理解できる範疇を優に超えた距離を、川辺は生態や知的構造の全く違う星に住む、異星人からの視点に置き換えました。はるか遠くの時間を想像することは「わからない」ものに対峙することであり、それを乗り越えるためのファーストコンタクトから理解するための試みとして提示します。

川辺は、作品に用いるマテリアルの社会的コンテクストを重視し、丹念なリサーチの上でマテリアルの選択を続けてきました。これまでたびたび用いられてきた炭(石炭)というマテリアルは、3億6000年前に光合成を行なっていた植物の化石が地下に圧縮されて生まれたものです。そしてそのひとつの物質には、炭鉱という産業の歴史、CO₂の環境問題、エネルギーの循環、灰に至るまでの途中の状態、光を反射しない物質、といったいくつもの異なった位相の情報が付随しています。川辺の作品は、そういった圧倒的な時間の中で蓄積してきた物質が、人間の視点での時間軸の中で変化してきたことを気づかせ、その作品を知覚した鑑賞者の足元を揺らがせます。また、2001年よりヨーロッパに拠点を置いて活動して行く中で、「ヨーロッパの土地の上に政治的に、あるいは歴史的に引かれた多くの国境線を目にした。国境線という事象が、私にとっては"変換の境目"が現実となって、現れ出たように思われた。」と川辺は語ります。国境線をバラバラにしてペーパーカットにする作品は、そうした変換の境目に形を与え、現在大変シビアな状況にある世界情勢の中に存在する様々な境界線に対して、新たな視点を提案しています。

確かなものなどなく、目に見えるものだけが全てではない、あらゆるもののが価値基準が一瞬で崩れるかもしれない。そんな時代の中に輪郭を残すこと、新たな視点を投げかけること、適切なマテリアルを慎重に選び制作された作品を通して、川辺はこうした試みを続けています。日本国内での発表は久しぶりとなる川辺の新作に、是非ともご期待ください。



《The Black Cloud》 2017年
オブジェ、木、メタル、テグス、紐、プラスティック、紙、ラック
2000 x 300 x 400 mm



《Continent of Africa》 2015年、オブジェクト、紙、ピン、140 x 100 mm

川辺 ナホ

1976年 福岡県生まれ
現在はドイツと日本を拠点に活動中

学歴

2006年 University of Fine Arts of Hamburg、ディプロマ取得
1999年 武蔵野美術大学映像学科、学位取得

個展

2016
delikatelinien - Ermekielkaserne (ポン・ドイツ)

2014
piece, piece (with Jane Brucker) - Port Gallery T (大阪)

2013
Observer Effect - Wassermühle (トリッタウ・ドイツ)
Observer Effect - Galerie du Tableau (マルセイユ・フランス)
relation, unscharf - STORE contemporary (ドレスデン・ドイツ)

2012
Blüthenstaub - Port Gallery T (大阪)

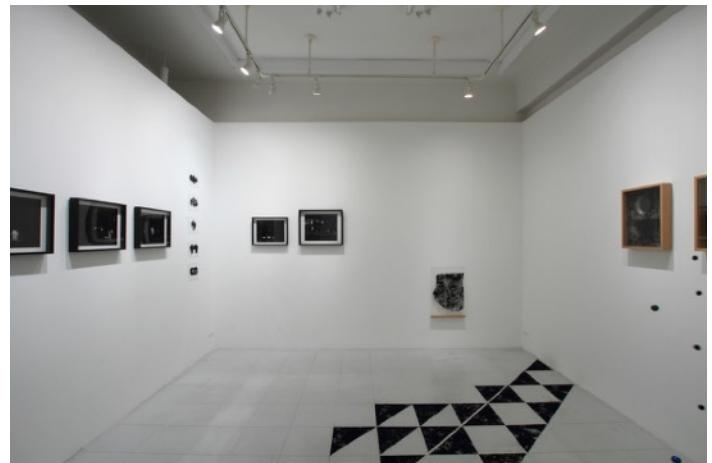
2011
Shiseido Art Egg / Open Secret - SHISEIDO GALLERY (東京)

2010
Most things happen in the interval - Port Gallery T (大阪)

2009
StipendiatenArt (with Anne Rinn) - Johann-Friedrich-Danneil-Museum (ザルツヴェーデル・ドイツ)

2005
Helgoland - Gallery IAF SHOP* (福岡)

2004
dem Anschein nach - Einstellungsraum e.V. (ハンブルク・ドイツ)



個展『Blüthenstaub』展示風景、2012年
(会場: Port Gallery T・写真: 天野憲一)



Shiseido Art Egg 個展『Open Secret』展示風景、2011年
(会場: 資生堂ギャラリー・写真: 加藤健)

主なグループ展

2016
LIFESTYLES – KUNST aus FUKUOKA, JAPAN – WESTWERK (ハンブルク・ドイツ)
QMAGコレクション展 ON THE WALL - Operation Table (福岡)
Grenzenlos / Himmlische Perspektiven - Schlosskirche, ポン大学 (ポン・ドイツ)
The Material of Memory - Frise (ハンブルク・ドイツ)
ort-m migration memory - Frappant (ハンブルク・ドイツ)
Lifestyles - Westwerk (ハンブルク・ドイツ)

2015
Von Wörtern und Räumen - Galerie im Marstall (アーレンスブルク・ドイツ)
Sudden Change of Idea - Union Art Museum (武漢・中国)
presente / Interchange & Commentary III - Frappant (ハンブルク・ドイツ)

主なグループ展（つづき）

2014

想像しなおし - 福岡市美術館（福岡）

Notausgang am Horizont - 8. Kunstfrühling (ブレーメン・ドイツ)

How Modular Is Now? - Künstlerhaus Sootbörn (ハンブルク・ドイツ)

Can I ask you personal question? - Sichuan University Art Gallery (成都・中国)

Bien Merci - Galerie Le Couer (ケルン・ドイツ)

2013

… und Hamburg, was glaubst Du? - Kunsthaus (ハンブルク・ドイツ)

ONE YEAR - Galerie Marstall (アーレンスブルク・ドイツ)

2012

boesner art award 2012 - Märkisches Museum (ヴィッテン・ドイツ)

Moving Surface - Künstlerforum (ボン・ドイツ)

Video Violence - Kunsthaus (ドレスデン・ドイツ)

Out of Space - Gallery SUZUKI (京都)

問い合わせ - Port Gallery T (大阪)

2011

Archive und Geschichte(n) - ハンブルク現代美術館 (ドイツ)

JCE: Jeune Création Européenne, with The Bee to Bee Net - パリとその他のヨーロッパ数都市を巡回

INDEX 11 - (ハンブルク・ドイツ)

2010

Versus Whiteout, with The Bee to Bee Net - Kunsthaus (ハンブルク・ドイツ)

come into sight - Port Gallery T (大阪)

2009

The Bee to Bee Net - Künstlerhaus Sootbörn (ハンブルク・ドイツ)

Twinism. 20 years partnercity Hamburg/Osaka - Kunsthaus (ハンブルク) AD&A Gallery (大阪)

2008

The Bee to Bee Net meets hulahoop - Gallery hulahoop (香港)

Einlandung - Mecklenburgisches Künstlerhaus Schloss Plüschow (プリュショウ・ドイツ)

Wir nennen es Hamburg - Kunstverein in Hamburg (ハンブルク・ドイツ)

2007

Lebe wohl. Suizidalität - Kunst und Gesellschaft, Kunsthaus (ハンブルク・ドイツ)

INDEX 07 - (ハンブルク・ドイツ)

2006

Migration Addict - Sculpture squer (シンガポール)

Joint the dots - Ben Kaufmann Gallery (ベルリン・ドイツ)

Plattform#3 - Kunstverein (ハノーファー・ドイツ)

2005

Wintergarden - Raboisen (ハンブルク・ドイツ)

Migration Addict - Warehouse (上海・中国)

2003

Sweet Tune - Hotel Stadt Altona (ハンブルク・ドイツ)

2000

KROM - 世田谷美術館ギャラリー (東京)

1998

World Wide Network Art - アサヒ・スーパードライホール (東京)



《Top Heavy》2012年

木炭の粉、ガラス、木、400 x 500 x 50 mm

(写真：天野憲一)

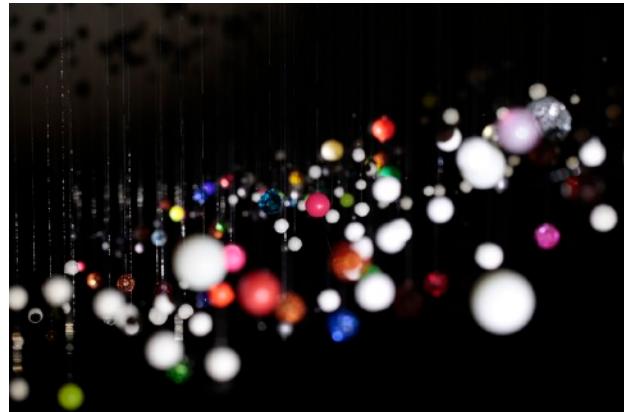


《untitled》2011年、木炭の粉、インスタレーション、2000 x 2000 mm

(会場：INDEX 11・写真：Hayo Heye)

アワード&フェローシップ

2013 野村財団・芸術文化助成
2012 Wassermühle Trittau / Sparkassen-Kulturstiftung Stormarn財団
2012 boesner art award 2012 / 審査員特別賞
2011 Shiseido Art Egg Award 05
2009 文化庁・新進芸術家の海外研修
2008 Hamburger Arbeitsstipendium für bildende Kunst
2008 Atelierstipendium der Stadt Salzwedel, Sachsen-Anhalt
2006 Mecklenburgisches Künstlerhaus Schloss Plüschow
2005 Leistungsstipendium für Ausländische Studenten
2001 DAAD



出版物

『DELIKATELINIEN』 2016年、ドイツ
『Observer Effect』 2012年、Revolver Publishing、ドイツ

『Optiker』 2014年、ミクストメディアインスタレーション、サイズ可変
グループ展『想像しなおし』（会場：福岡市美術館・写真：山中慎太郎）

展覧会図録

『Lifestyles』 2017年1月、Lifestyles展実行委員会
『ort_m (migration memory)』 2017年2月、Revolver Publishing ドイツ
『Von Wörtern und Räumen』 2015年10月4日、Stiftungen der Sparkasse Holstein、ドイツ
『想像しなおし』 2014年2月10日、福岡市美術館
『Kunst Frühling 2014』 2014年5月16日、BBK Bremen e.V.、ドイツ
『BOESNER ART AWARD 2012』 2013年、boesner GmbH holdings + innovations、ドイツ
『Moving Surface』 2012年、ML Moving locations e.V.、ドイツ
『Shiseido art egg vol.5』 2011年5月25日、資生堂 企業文化部
『INDEX 11』 2011年11月2日、Index、ドイツ
『EXTRA 3』 2010年5月11日、Kunsthaus Hamburg、ドイツ
『The BeetoBee.Net』 2010年、The Bee to Bee Net、ドイツ
『TWINISM』 2009年、Kunsthaus Hamburg、ドイツ
『WIRNENNEMES Hamburg』 2008年10月11日、Kunstverein Hamburg、ドイツ
『28. Hamburg Arbeitsstipendium für bildende Kunst 2008』 2008年、ハンブルク市、ドイツ
『index 2007』 2007年12月6日、Index、ドイツ
『EINLANDUNG』 2007年、Förderkreis Schloss Plüschow e.V.、ドイツ
『VierTakter + X』 2005年、EINSTELLUNGSRAUM e.V.、ドイツ

パブリックコレクション

Hamburger Kunsthalle
Sparkassen-Kulturstiftung Stormarn
Sichuan University Art Gallery

アーティストウェブサイト

<http://www.nahokawabe.net>

※本展に関するお問い合わせは、下記連絡先までお願いいいたします。

WAITINGROOM (代表：芦川朋子)

住所：〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西2-8-11 渋谷百貨ビル 4F

営業時間：月 17-23時・木金土 12-19時・日 12-18時

定休日：火水祝

Tel&Fax : 03-3476-1010 Eメール : info@waitingroom.jp

Web : <http://waitingroom.jp>